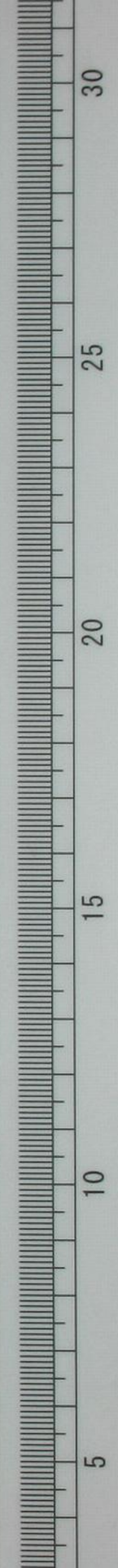




未昏下卷二

イ13
915
2





二十本月甲陽軍鑑末卷下卷二

佛旗本備押之伏法十五箇条が

一 是輕大が我馬印成先へり之務て同心

足輕とつてて押但馬宗同心は足輕五

人の間一騎宛系とて得道具成

勢馬れた右より附て也

二 並の扱旗を以て衆本存るも奉行を二

人跡先のふなも

三 並の長柄奉行を五拾本一騎宛但

二並の扱旗

ナミノ扱旗ト云ハ

一備々カ備ト云證

扱旗ト云ハ

甲陽家信云

ノ旗本旗十二本並ニテ並ハタナニ味方原合戦ノ以後上方ノ備ハ旗數多キヲ

並扱旗ヲ持セ給

何本ニテモ奉行ハ二人

三並ノ長柄

家中ヨリ出スルノ役長柄あり

御覽有テ備ノカカリニヨキトテ十二本ノ外ニ

四御長柄貳本
是六大将ノ直長柄ノ如クハケニキ用ヲナスノ具ニアラスト云ヘトモ備ノカサヨリヨリ故ニ
五十本ニ騎ツノ
頭ニテモ不苦

五拾本宛ル先ノ素テ押也

四御長柄貳百本是也奉行ハ五十本ノ一
騎宛鏈ル先ノ素テ押也

五御長柄足輕大御同心足輕成つて押但
歩足輕ノ馬素同心成指副ノ後務
ノ五冬人宛付めて間ノ馬素成此務
ノ足輕大御素テ押也馬素成此務
我々の也ノ素テ其功ノ素ノ直其
素成の勝て馬印と引付先ノ素

得道具と素ノ馬ノ右ノりノ素
押事願と同心被官と皆此出願足輕
大御^{三人}知者一人ノ御^{三人}とと指付
儀式之右ノ通也御陳取此時一人宛
沛後ノ陳取者役之其時也知者也
曾根内通武藤在流三枝勘^有在室
二人也勝頼公沛代ノ勘^有在室ノ長藤
て討死仕^有武藤在室ハ先五人長藤
とて討死故其^有流下勝頼公沛代

よ成て、真田安房も、中作、曾根内
道ハ、野也、申、付、右ノ之頼ハ、馬、糸
同心多、故、込、ハ、此、心、道、ハ、先、ハ、右、ノ、心、也

越、ハ、者、也

六蜈ノ指物
十二騎之内九騎御先あり
御先ノ乗ニ
跡ノ同心
御馬ノ所近キ故
若作法ナト乱リ
カワシキカ又御目
通近キ恐ラ惶
御先番ノ時ハ
先立テ押ス

六蜈ノ指物、氣十、貳、騎、内、冬、騎、沖、江、ノ、
の、何、故、能、得、道、具、ト、形、馬、ハ、右、右、ノ、
引、附、テ、持、ト、形、也

七沖拵、鍔、亦、貳、本、内、二十本ハ、長、力、柄、青、貝、
赤銅、鍔、其、下、ハ、一、尺、五、寸、計、ハ、黒、地、馬

乃、尾、ノ、物、也、
鍔、也、二、本、ハ、毎、ハ、甲、ノ、上、ノ、
ハ、二、騎、鍔、ハ、左、右、ノ、
青、明、青、ハ、武、者、必、敵、ラ、ク、
ハ、二、騎、鍔、ハ、左、右、ノ、
ハ、二、騎、鍔、ハ、左、右、ノ、
ハ、二、騎、鍔、ハ、左、右、ノ、

八沖旗、十二本、
乃、筋、共、下、ハ、朱、ノ、
美、足、是、ハ、沖、家、ノ、傳、ハ、新、羅、三、郎

天正元年持せ玉
ト云 未書ユ川
中嶋ノ時ヨリ持セ
玉フトアリ爰ニ此
云ハ誤アリ天上
天下御尊ノ語ヲ
天正元年書加(玉
フナルシ

我克公の御旗のうり 是也 是一乃
御足次ノ八幡大菩薩の御旗之本
白地ノ雲ノ下ノ書次ノ勝軍地蔵ノ御
旗二本次ノ願訪上下大昭神の御旗五
本何義之のけ也但或時ハ雲地ノ朱ノ
之書者ノ下ノ中ニ在物中御地界可
被成天正元年九月三月東夷濃赤陳ハ
内軍地ノ金ノ下ノ五乃^古結成被持共結
一其疾如風 二其徐如林 三侵掠

如火 四不動如山 五天上天下唯
我獨尊是之其御陳ノ下ノ下ノ
御持也私成作其合十二本右御旗
行今并形如雀ノ子^思是^思新在也又是
信玄公の御感怍十一子ハ七ツ武功武
士也御旗の記之ノ系之尚書以明書
是也各書也

九 武者奉行如藤波河守上原随雁軒以
随應後上野濃又破屋ノ在城也此後

二十人衆ト歩行ノ
事此頭ヲ廿人
衆頭ト云今御旗
本ヲ御走ト云北条
氏康ニテ手脇衆ト
云中間ト云手廻ノ
下ヲ押ナメテ云

系後水舟并武者奉行也跡部も慶長
是之同半也施中武者奉行也武者
清馬其女之左右成の内其次歩成其
人氣百丈人清馬其前此頭二騎法
旗奉行也清馬其行武者奉行也
一清中間頭二騎是也右成其
行一清一里其子細清中間頭八目
付丈人氣頭其横目其八騎宛八清
記一系清中間頭八騎其記一乃清

子細八清鷹其也其揚も新氣も揚也
押也是也貳人宛番替りも丈人三頭
也一日一宛番替り也其次一右之人其内
一人乃其恒大押也

十清小人清中間清馬其迫り清佐任
但五人宛番替り仕清旗其是も押也
鼓成較も大較も傳在貝其間一吹但
貝其也其清小人其役也清小人寡
其清中間も多し其故馬系清小人

貝其時トナリトハ
十一段ノ傳授ヲ
ルコトク大鼓ノ用
所ニ依見ヲ添ル
トノガルトノ時有
故ニトキノ吹ト云ナリ

十騎と申す御中間頭也申作也

十一小荷込奉行備百騎百五十騎の侍大將

西人小荷込の侍也。押間。小荷込也

十二小荷込奉行換様より大剛の侍大將

殊に貳百騎冬百騎指し西人色被付也

在信玄公御備如此口傳有

十三四拾騎也侍預る武士公足輕大將と申作

是成貳百騎冬百騎の侍大將。被指副

と組也と申作

四十九騎迄預り
テモ五十騎不足
八足輕大將ト云
也今爰ニ四十騎
ト書タルハ文ノ誤
有リ

十四四拾騎の上五拾騎より侍大將と申す

是と貳百騎冬百騎の侍大將。被指副

と相備也申作一騎の侍成將大將

被預ると同也

備頭

十五何れも寄親組頭の下知し付作の御

紙と被付也右の御知し不附と違心

同前乃御科し可被付也望御仕置

備定如件也

○此由の家々武者之分十箇条也

一侍大乃武者是ハ五拾騎より上預リて
形と申儀

二足輕大乃武者是ハ四拾騎迄預ル事

三細頭武者是ハ番頭申儀事

四御使武者是ハ其指物乃預ル事

五奉行武者少クハ一武者奉行貳騎二

御旗奉行貳騎三御持徳奉行貳騎

合六騎也此外御番柄奉行貳百本と五拾

本一人宛四人是也如斯ハ武者と撰被奉也

六逆の旗奉行数人綴旗と云ハ

是二人宛ハ一燭燭ハ一より一より五人

として其の記取也

七並ハ長柄を以て十平一人宛能武士

と云ハ其儀作付儀事

八歩武者と云ハ銃炮前旗柄長柄能持

是も其具是是程ハ人ハ武者と云ハ事

九是ハ武者と云ハ久中討陣ハ度ハ足輕

迫合ハて能働乞廻乃侍肩等ハ也

手負其年を御出わると具足と云われ
ふは大会戦のふくむはるはあ
ふそしたまわて居ると法修軍悪
くし中よ付と家親は具足とゆわれ
て出る人とはとらるる武とてし事

十右此外亦不者又申間亦單之飯九武ハ
又あ〜〜子ハ皆わとと者ハし上

○修言出陳ハ付之テ条之

一軍配ハ内ノ者ト各ノ事付ハの

石終作ハ傳多一

二吾函ハ沛年筮武ハ當てれ易早と所
要ハ被取事付早と心得名條れ
とら終不依之ハ傳

日取悪シケル
士卒ノ心
イサニテ故
ニ其エトラ
時トリカハル
也々上ハ子
日アシキナハ丑ノ時ヲ用テ子ノ日ヲ轉スルナリ

日取ハ移ハ時日其當家卦よらての

○武心者武ハ心懸之テ条ノ事

一武古ハ我ハ人ハ人ハ弱氣と云せし
〜〜人ハ之ハ外武ハ任ハ事付ハ

とて^三悪^二に^一臨^二次^一中^二より^一して^二大^一船^一より^一
ま^二ゝる^一人^一も^一あ^二る^一て^二惡^一難^二之^一結^一也^{付中}
あ^二き^一人^一の^一も^一下^二馬^一武^二記^一傳^二る^一如^一此^一也

二 人の氣・當は^二事^一少^一も^一名^二を^一中^一に^一り^付之^一
紙^二を^一て^二け^一て^二中^一に^一り^付之^一能^二方^一別

して^二之^一揃^二ひ^一て^二必^一務^二員^一之^一結^二之^一體^一
角^一に^一け^二て^一申^二て^一か^二ら^一る^二角^一を^一れ^二角^一

こと^二は^一必^二大^一膽^二病^一に^一不^二儀^一也

三 武乃^一・法と^一人^一の^一事^一と^一必^一可^一知^一事^一付^一知^一事^一

なり^二と^一責^二て^一ま^二へ^一乃^一在^二中^一申^二呼^一針^一也

可^二存^一也^付中^一・地家^二風^一の^一小^二者^一未^二練^一

仕^二地^一三^一素^二より^一馬^一上^一と^一傍^二軍^一一^一行

念^二を^一め^二く^一と^一あ^二る^一と^一妨^二ひ^一仕^二家^一の^一大^二膽^一

病^二者^一也^付中^一・知人^一な^二ら^一る^二急^一介^二に^一不^二心^一急

也^一知^二人^一と^一な^二く^一別^二に^一置^二と^一き^二て^一ぬ^一

也^一不^二苦^一作^二若^一知^二人^一と^一な^二く^一其^二惡^一く^一い^一

也^一ま^二の^一思^二ひ^一妨^二ひ^一仕^二家^一の^一大^二膽^一病

な^二心^一と^一な^二く^一作^二中^一を^一可^二存^一作

二九様の人、女能変われ、驕作

之方、わ、此儀われ、あるとく、つるも、女能可
難なり、初、く、臆病、死、冬、箇条、乞
よ、實、の、なり、作、へ、合、我、一、遠、て、に、く
心、の、必、定、也、と、寔、變、之、可、被、成、也、と、也

○弱教、く、考、冬、箇条、之、夏

一、も飯、強、正、申、^{大人教ヲ将テ}、其、大、お、武、の、家、老、氣、大、人、教
と、持、て、武、士、道、不、案、内、成、弱、く、見、ゆ、の
者、是、と、弱、教、と、申、亦、小、力、者、不、得、変

と、仕、申、へ、は、進、者、見、ゆ、者、也、大、お、武、の
家、老、氣、如、此、成、久、し、家、計、然、り、大、力、よ
多、力、変、驕、て、能、儀、と、取、失、の、末、よ、成
之、為、家、を、共、と、人、何、に、れ、社、弱、者、也
因、よ、強、之、弱、死、在、由、一、也

二、不、案、内、乃、武、物、と、在、間、敷、作、末、成
之、為、家、成、果、報、の、あ、る、仕、お、侍、切、取、て
取、信、を、流、石、大、力、と、も、何、の、教、よ、あ、り、と、
取、故、大、人、教、と、も、ち、矣、不、案、内、を、剛、教

會弱く見少の者は

三強敵
本文如クノ謀
ヲ用(カラサレニ
ハアラス其備
正シテ全ク勝
タルニ合スレキタ
ナキ勝ユナリ

一 上野と取上板別改云ハ神子甚ク

二 信成の事 付 常成康云より上板取常

曹月と誅 給ハ信成云御慈愍如此

一 是より上板是方流信成云ハ二入親

二 信初川中流神打入の時西条山ノ村土家

先祖の宮有村土家御家言^家して如

此 一 此者言梨の岩井入道其外二三類

ハ宮へ参りて洞となりて存也 越後へ

内通信也村土家我流云 謙信云引出 可申

兄弟の弟と被給付寺へハ神布施

被成の事 付 常成康云より上板取常

曹月と誅 給ハ信成云御慈愍如此

一 是より上板是方流信成云ハ二入親

二 信初川中流神打入の時西条山ノ村土家

先祖の宮有村土家御家言^家して如

此 一 此者言梨の岩井入道其外二三類

ハ宮へ参りて洞となりて存也 越後へ

内通信也村土家我流云 謙信云引出 可申

中逆心起ゆ故岩井入道と事と組
流とも志沛多と一被成い右村上
先祖の宮とも女となく焼器一社願
願と沛とも一被成重る謀敏川中
流記とも一多く仍如件

○信玄公人沛憎矣之箇条とも

一 譚代流の謀敏をくじ親妻子近沛が
敗くとも

二 一度此方へなり亦元れまといひく頼母

此儀也然とも謀敏をれい妻子近沛が
敗被成作事細元と乱せ謀敏をれい
親よ沛のりし有由一きその儀也

三 敵乃国成治り共大物と祐失ふとも共
下乃諸將味方よ成よ行めてい必意よ
被拘一主寄親と可付事付 按伐か
か不案内れ大物不穿疑をれ始儀成
子細ハ委頼じ主君よ忠切の儀ハ敵
とも尤感しては沛の武士道也なり

仍如件

此書物九品一冊方札卷第數
多作而取迫不自由之作故本
成九冊。仕作。尾烟勘去衛如
此也。

早稲田大学図書館

011888006674